

各世帯の協力と理解を得ながら調査を ●2010年世界農林業センサス調査員説明会



▲調査票の記入の仕方などについて確認した2010年世界農林業センサス調査員説明会

2月1日を基準日として実施される2010年世界農林業センサスの調査員説明会が1月14日から25日まで市役所の各庁舎等で行われ、調査員らは調査内容などについて理解を深めました。

農林業センサスは我が国の農林業の生産構造、就業構造を明らかにするとともに、農山村の実態を総合的に把握し、農林行政の企画・立案・推進のための基礎資料を作成し、提供することを目的に、5年ごとに行う調査です。

北秋田市では約5900世帯が対象となります。調査員・指導員は、知事が任命する非常勤公務員。229人が調査や審査指導にあたります。対象世帯には、調査員が訪問します。調査票の記入や回収等にご協力をお願いします。

百人一首で楽しみながら古典を

●米内沢高校全校カルタ大会



▲合川高校と鷹巣農林高校の1年生も参加した、米内沢高校全校カルタ大会

県立米内沢高等学校(佐々木潤子校長・生徒104人)で1月22日、第45回全校カルタ大会が開かれ、生徒たちが一枚の札に一喜一憂しながら日本の伝統文化を楽しみました。

大会には、同校生徒のほか、統合高校で一緒になる、合川高校と鷹巣農林高校の1年生、鷹巣カルタ同好会・小倉会(伊藤倫子会長の会員も出場。

生徒たちは相手より早く札を取ろうと、耳を澄まし目で札を追う真剣な表情。静けさの中、読み手が上の句を読み上げると、素早く反応して勢いよく手を伸ばし、札を取り合っていました。なかには同時に反応して、札の上で手が重なる場面などもあり、白熱した試合が展開されていました。

大声援を受け力走

●第22回森吉山スキー大会／第62回大館・北秋田中学校スキー大会
●第9回あきた北空港学童クロスカントリースキー選手権大会



▲家族らの声援を受けながら力走する選手たち(あきた北空港学童クロスカントリースキー選手権大会)

第22回森吉山スキー大会(県スキー連盟公認)、第62回大館北秋田中学校スキー大会が1月10日、阿仁スキー場に隣接する高津森クロスカントリースキー場で開かれ、135人の選手が出場し熱戦を繰り広げました。

また、第9回あきた北空港学童クロスカントリースキー選手権大会(鷹巣スキークラブ主催)が1月17日、大館能代空港ふれあい緑地クロスカントリーコースを会場に開かれ、小学生が各種目で熱戦を繰り広げました。

両大会とも、選手の家族らが大会会場にかけつけ、タイムを競うわが子や同じ学校の選手に声援を送っていました。選手らは力強い声援を受け、懸命にゴールを目指し力走を見せっていました。

スポーツの力で活力ある地域づくりを

●森吉クマゲラスポーツクラブが発足



▲クラブ理念や事業計画を承認した森吉クマゲラスポーツクラブ設立総会

森吉クマゲラスポーツクラブ(会員数124人)の設立総会が1月16日、阿仁川あゆセンターで開かれ、68人が参加して行われました。

総会で三浦多加穂設立準備委員長は「公共性のある地域密着型の総合型地域スポーツクラブを2年間、施行錯誤しながら、設立に向けて準備を進めてきた。総合型スポーツクラブは、地域住民が自主的に運営し、スポーツの力で生きがいや仲間づくり、健康づくり、地域づくりを進めていくもの。皆さんの協力をお願いしたい」とあいさつ。

このあと議事では、クラブ理念や規約を承認。役員選出では三浦準備委員長を会長に選出したほか、事業計画や予算を承認しました。

迫力とリズム感あふれる演奏で聴衆を魅了

●鷹巣ばやし普及会定期演奏会「ザ・太鼓」



▲太鼓のリズム感と迫力を披露した鷹巣ばやし普及会定期演奏会「ザ・太鼓」

鷹巣ばやし普及会(野呂俊二代表)の定期演奏会「ザ・太鼓」が1月10日、市文化会館で開催され、迫力のある演奏で聴衆を魅了しました。

同会は、鷹巣神社の祭典を盛り上げようと昭和58年に発足。以来毎年巡行演奏を重ね、夏祭りのお囃子として定着しました。「まず打ち手の自分が楽しむ」をモットーに活動しています。

演奏会は、「寄せ太鼓」でオープニング。その後、大太鼓と締太鼓の掛けあい、小気味よい「阿吽」や「スタンパー」などのオリジナル曲を披露し、聴衆を太鼓の世界に引き込みました。最後は、同会の原点「鷹巣ばやし」を出演者全員で力強く演奏し、会場と一体となって太鼓の魅力と素晴らしさを伝えました。

伝統行事で豊作を祈願

●J A鷹巣町青年部「雪中田植え」



▲雪中田に稲を植え五穀豊穡を祈願した小正月行事「雪中田植え」

作占いの小正月行事「雪中田植え」が、1月15日、綴子・大太鼓の館前行われ、J Aなどの関係者約50人が田の神にお神酒を供え、豊作を祈願しました。

大太鼓の館入り口前に特設された雪田の前では、J A鷹巣町青年部の堀内英俊部長が「昨年は日照不足のため不作の年だった。今年は豊かな実りを期待したい」とあいさつ。

この後、菅笠をかぶりケラ(蓑)を着た堀内部長が、稲に見立てた稲わらと豆がらを30秒間隔で計16束を植え付け、虫除けや田の目印となるすず払いのわらぼうきを逆さにして雪田の中心に立て、大豊作と米価の上昇などを祈願しました。

2月1日には、豊凶を占うため稲刈りが行われます。